



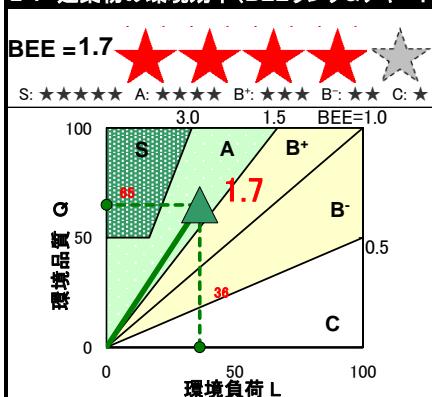
1-1 建物概要

建物名称	金沢区民文化センター(仮称)	階数	地上4F
建設地	横浜市金沢区瀬戸5002番8, 5002番9	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	430 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,150 時間/年(想定値)
建物用途	集会所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2025年5月30日
敷地面積	811 m ²	作成者	株式会社八板建築設計事務所
建築面積	705 m ²	確認日	2025年5月30日
延床面積	1,996 m ²	確認者	八板千恵

1-2 外観

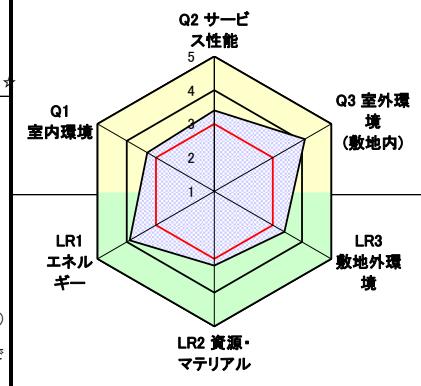


2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



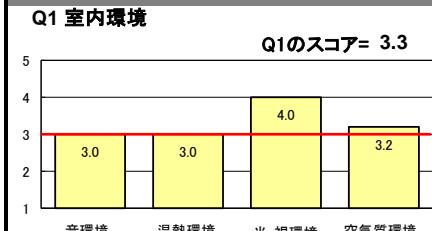
30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



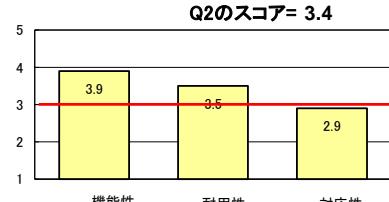
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質



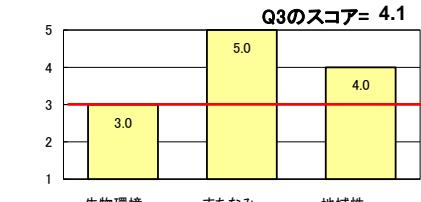
Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

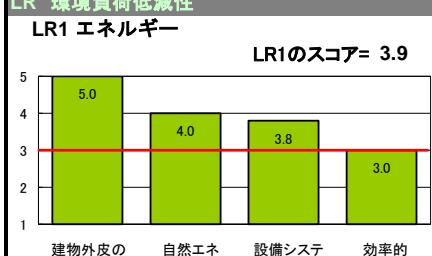


Q のスコア= 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

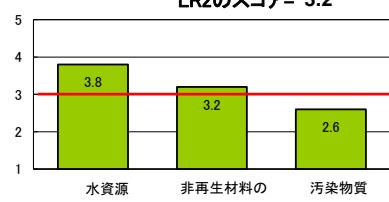


LR 環境負荷低減性

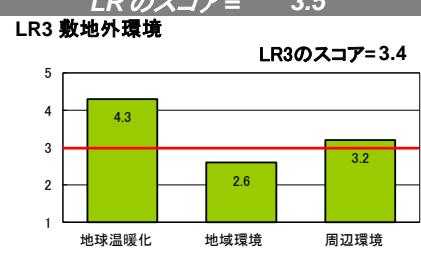


LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2



LR のスコア= 3.5



3 設計上の配慮事項

総合

- 騒音・防災など地域の課題や環境に配慮し、地域に開いた施設として計画。
- 明解な動線とコバ外な平面計画で限られた敷地に最大限の緑地を確保。
- 自然採光や通風を積極的に取り込みエコロジカルで快適な環境を実現する。
- 快適な空間を確保するとともに、周辺住環境にも配慮する。

その他

Q1 室内環境

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

- 断熱、複層Low-Eガラス、全熱交換機器等の導入により、空調負荷を低減し温熱環境を向上。
- ルーバーによる西日制御。
- F☆☆☆☆ 建材使用率90%以上。さらにVOC放散量

- 建築物移動等円滑化基準を満たしている。
- 「公共建築物構造設計の用途係数基準」における用途係数1.25の耐震設計。
- 電気設備は、トップランナー方式適合機器・グリーン購入法

- 屋上緑化・壁面緑化等の省エネ対策の「見える化」の工夫を行い、地域への波及効果を図る。

- 高効率機器・人感センサー付き照明器具等を採用。
- BPI=0.46、BEI=0.51

- 節水型便器、自動水栓使用とし、水資源保護に努める。
- 内装材と設備は分離して設けることにより、容易に交換可能となっている。
- パーティションは再利用可能なユニット部材により構成される。

- 屋外通路による日陰形成。緑地による暑熱環境緩和。
- 地域利用や災害時の利用も考慮して多目的に活用でき

LR2 資源・マテリアル

- 壁面緑化及び屋上緑化により地域景観の向上とヒートアイランド抑制に寄与。
- 外構は透水性舗装を採用。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

受付日 2025年5月30日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

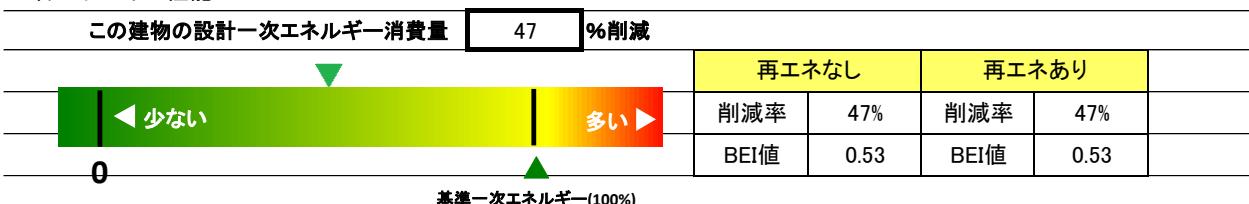
建物名称 金沢区民文化センター(仮称)

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】 3

■省エネルギー性能



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ・全体平面をコンパクトにし負荷の大きい外壁面積を減らしている。外壁と屋根の全面を断熱し、熱負荷を軽減している。
- ・自然採光や通風を積極的に取り込みエコロジカルで快適な環境を実現する。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ・屋外通路・庇・カーテンによる日光制御。
- ・建築材料F☆☆☆☆使用90%以上。さらに、VOC放散量の少ない建材を使用。
- 機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)
- ・建築物移動等円滑化基準を満たしている。
- ・維持管理に配慮した設計としている。
- 室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

4

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ・「公共建築物構造設計の用途係数基準」における用途係数1.25の耐震設計。
- ・電気設備は、トップランナー方式適合機器・グリーン購入法適合品を採用。
- ・メンテナンスが容易にできるように受変電設備・分電盤類・照明器具類を配置。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

4

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

- ・屋上緑化・壁面緑化等の省エネ対策の「見える化」の工夫を行い、地域への波及効果を図る。
- ・屋外通路による日陰形成。緑地による暑熱環境緩和。
- ・地域利用や災害時の利用も考慮して多目的に活用できる半屋外空間を計画。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギー・マネジメントシステム以外)

木材利用

エネルギー・マネジメントシステム導入



スコアシート		重点項目		建物全体・共用部	住居・宿泊部分	全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-
Q1 室内環境				-	0.40	-
1 音環境				3.0	0.15	-
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0
1.2 遮音				3.0	0.40	-
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0
2 溫熱環境				3.0	0.35	-
2.1 室温制御				3.0	0.50	-
1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.38	3.0
2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	3.0
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.38	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.20	3.0
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.30	3.0
3 光・視環境				4.0	0.25	-
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-
1 昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.60	3.0
2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	3.0	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.40	3.0
3.2 グレア対策				-	-	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	-	3.0
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.20	3.0
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		5.0	0.50	3.0
4 空気質環境				3.2	0.25	-
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	1.00	3.0
4.2 換気				3.0	0.30	-
1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.33	3.0
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.33	3.0
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.33	3.0
4.3 運用管理				4.0	0.20	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.50	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		5.0	0.50	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-
1 機能性				3.9	0.40	-
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	-	3.0
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	-	3.0
3 パリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	1.00	-
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		5.0	1.00	1.0
1.3 維持管理				4.0	0.30	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性		4.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性		4.0	0.50	-
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30	-
2.1 耐震・免震・制震				3.8	0.50	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	防災	⑯耐震・免震		4.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能	防災	⑯耐震・免震		3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-
1 軸体材料の耐用年数	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上		4.0	0.20	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑯部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-
2.4 信頼性				3.2	0.20	-
1 空調・換気設備	防災	⑰信頼性		3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性		2.0	0.20	-
3 電気設備	防災	⑰信頼性		3.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性		3.0	0.20	-
5 通信・情報設備	防災	⑰信頼性		5.0	0.20	-
3 対応性・更新性				2.9	0.30	-
3.1 空間のゆとり				3.0	0.30	-
1 階高のゆとり				3.0	-	3.0
2 空間の形状・自由さ				3.0	1.00	3.0
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0

3.3	設備の更新性		2.8	0.40	-	-	-
	1 空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	-
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	3 電気配線の更新性		1.0	0.10	-	-	-
	4 通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-	-
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑯生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑯まちなみ・景観への配慮	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑯地域性への配慮	5.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑯敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			3.8	0.50	-	-	3.8
集合住宅以外の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	3.8	1.00	-	-	-
集合住宅の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	-	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			4.0	0.70	-	-	-
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			2.0	0.50	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-
2.2 溫熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-
2 污水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			3.0	0.33	-	-	-
2 振動			3.0	0.33	-	-	-
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-	-
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-

上記以外の重点項目			-	-	-	-
<事務所用途>			-	-	-	-
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑯知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-
<住宅用途>			-	-	-	-
健康と安心			-	-	-	-
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-